

- (1) また、本検討委員会は、このような地域ごとの弾力的な運用を前提とした上で、子どもたちにとって望ましい教育環境や税の公平負担の観点、複式学級解消に向けた国の動向等も考慮して、適正化の検討をスタートしていく時期の目安を、小学校において「全学年が複式学級である、いわゆる完全複式」となった時点、もしくは更に小規模化が進んで「2つの学年で児童数がゼロ」となった時点のいずれかと考えます。

- (2) また、本検討委員会は、このような地域ごとの弾力的な運用を前提とした上で、子どもたちにとって望ましい教育環境や税の公平負担の観点、複式学級解消に向けた国の動向等も考慮して、適正化の検討をスタートしていく時期の目安を、小学校において「全学年が複式学級である、いわゆる完全複式」となった時点が適当と考えます。

- (3) また、本検討委員会は、このような地域ごとの弾力的な運用を前提とした上で、子どもたちにとって望ましい教育環境や税の公平負担の観点、複式学級解消に向けた国の動向等も考慮して、適正化の検討をスタートしていく時期の目安を、小学校において「全学年が複式学級である、いわゆる完全複式」となった時点が適当と考えます。ただし、「2つの学年で児童数がゼロ」となった時点との一部意見もありました。